



『オンライン上での交流の場作りに向けて』

株式会社CMU Holdings

学習支援員 空岡 和代・近藤 亜希子

きっかけ

肢体不自由特別支援学校に在籍する生徒や保護者との
会話の中で
生徒が、

「自分なんかのために…」

保護者が、

「この子はいろんなことがやりたくてもできなくて、
あきらめてきたことが多いから…」



ありのまま安心していただける場所
前向きになれる場所を作りたい。

取り組みのヒントを探る

生活介護事業所「ゆず」での支援から

訪問支援の際、スイッチをうまく押せると「見て見て。」と他の利用者や介助者に視線を向ける様子がある。

iPadで動画を見ている時に、他の利用者の見ている動画やしていることを気にする様子がある。

同じ学校出身で年齢が近い利用者が多く、学校在学中にできた仲間意識が続いているように感じる。

楽しく温かい雰囲気

学校卒業後の交流の一例

- ▶ 東京都の肢体不自由特別支援学校の卒業生
- ▶ 同世代の仲間
- ▶ Web会議システムZoomを使用
- ▶ 卒業生の1人が呼びかけ

おしゃべり会の内容

▶ 話題

学生時代の思い出
最近気になっていること

▶ 様子

言葉でのコミュニケーションが難しい子でも、とても楽しそうな表情で参加している。
積極的に話せる場所になっている。

ただ、1人で外出することがままならないこともあって、外に出て行動することについては、一歩引いてしまっている。

海外に留学したしょうたさんとゆうやさん

留学先：デンマークにあるエグモント・ホイスコーレン
(障害者と健常者の生徒が寮生活を送り学びあう
デンマークの国民学校)

- ・ 障害のあるしょうたさん
- ・ 健常者のゆうやさん

留学中はしょうたさんの介助者の役割も担う。

デンマークに向かう飛行機に乗る前に2人が会ったのは、2回だけ。
ゆうやさんは介護や福祉を学んだ学生ではない。

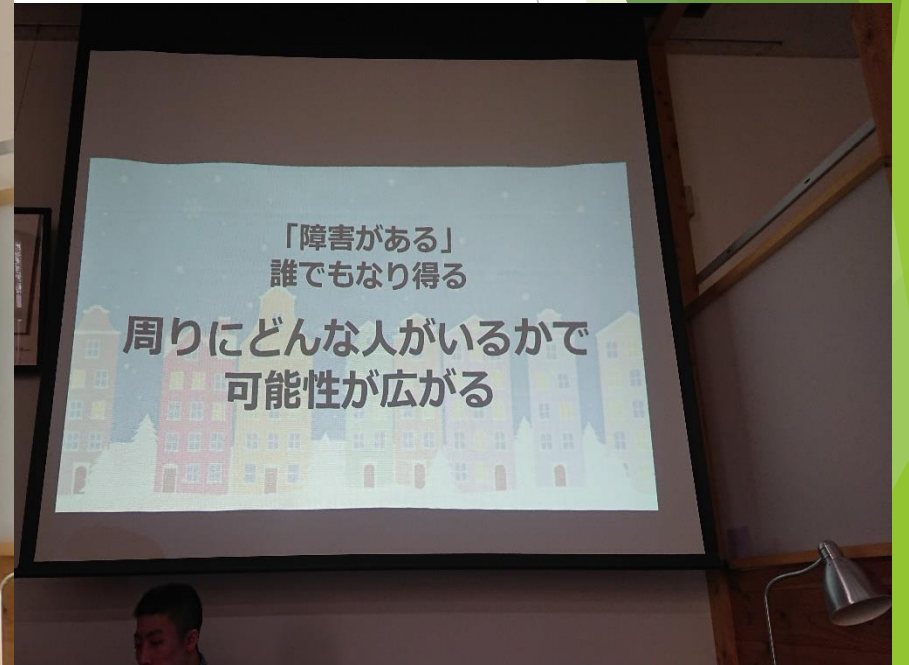
留学中に築いた関係性

常にやりたいことを選ぶのは、しょうたさん
ゆうやさんは仲間と共に、しょうたさんのやりたいことを実現する
にはどうすればよいかを考える。

1年間を一緒に過ごしたしょうたさんとゆうやさん
お互いに大切な友人

留学を終えた今

しょうたさんとゆうやさんと愉快的な仲間の皆さんは、エグмонт・ホイスコーレンでの留学経験を話す報告会を計画、実施している。



留学を終えた今

この報告会は、ゆうやさんが「やりたい」と発案
「報告会で話すこと、いろいろな人に会うことで、しょうたが達成感
を得られること、それが2人にとって成功です。」

しょうたさんとゆうやさん&愉快的な仲間の皆さんの報告会に
興味がある、ぜひ報告会を開催したい、という方

<問い合わせ先>

石川 雄也

coness.world@gmail.com

交流の場作りのポイント

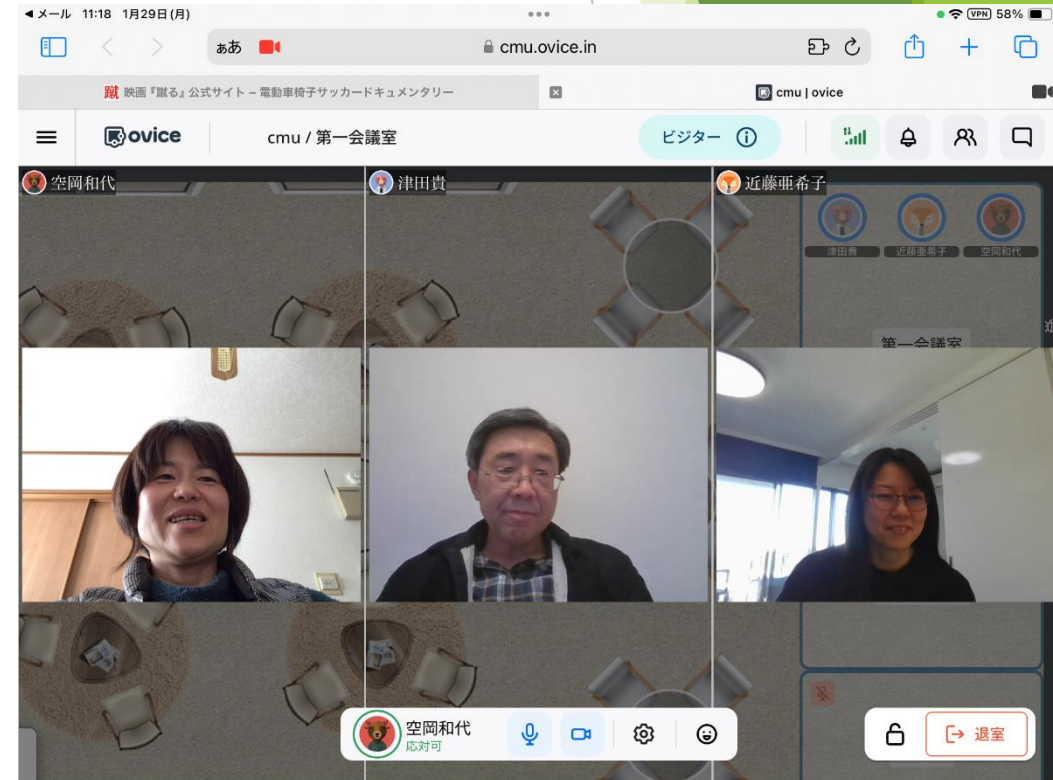
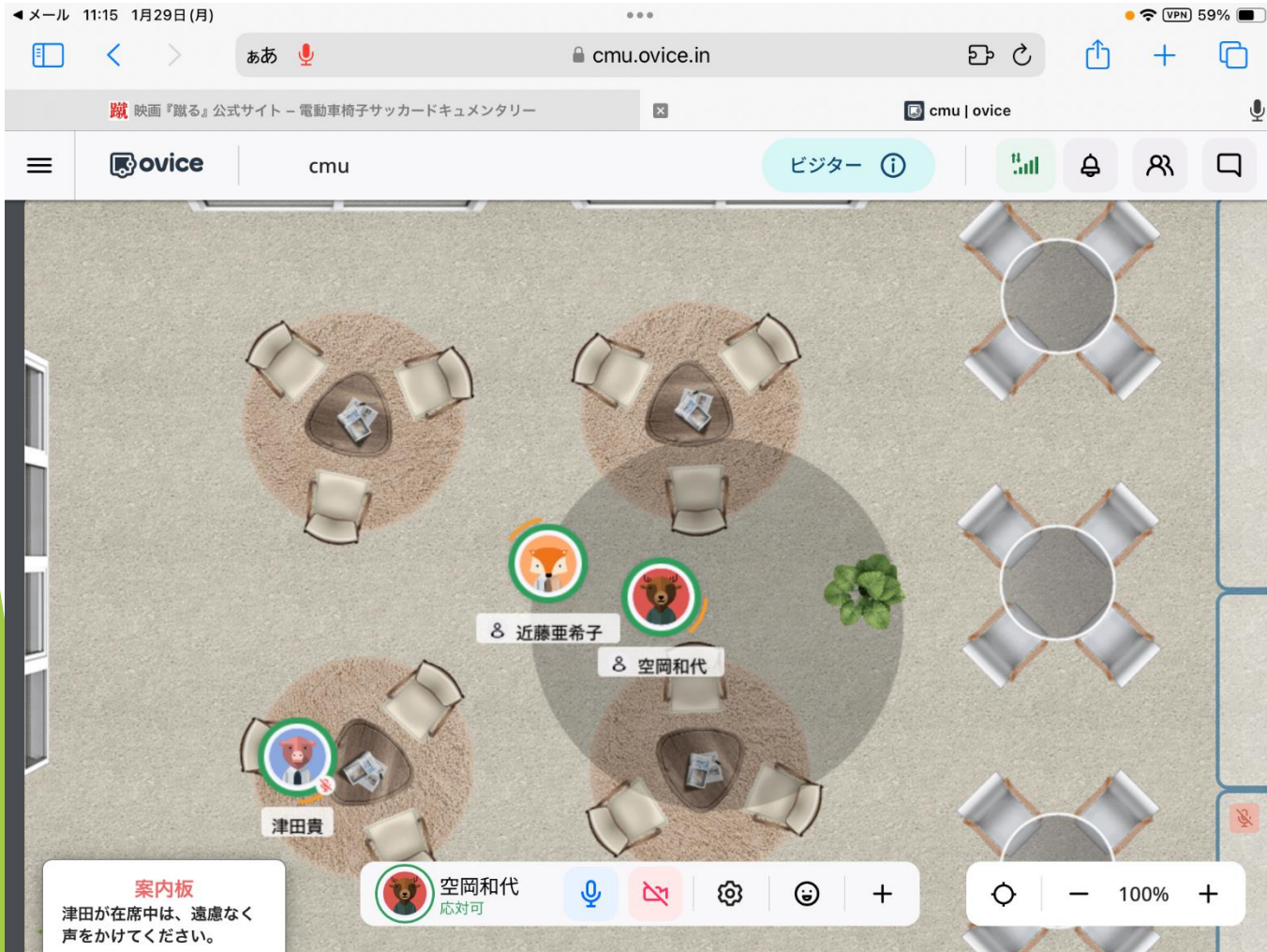
- ▶ 障害当事者同士のつながり
- ▶ 障害の有無は関係なく

- ▶ 同世代
- ▶ 共通の経験や趣味、好きなものがある

本人の思いを第一に

株式会社CMU Holdingsの取り組みより

- ▶ リモートでの在宅就労研修に活用されているバーチャルオフィス「oVice」
気軽に集まることができるおしゃべりの場として活用を推進中



ご清聴ありがとうございました。